

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272100502		
法人名	株式会社ヘルスケアナラシノ		
事業所名	グループホーム津田沼		
所在地	千葉県習志野市藤崎4-10-8		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果市町村受理日	平成26年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成26年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は緑豊かで閑静な住宅街にあり、近隣には小学校や幼稚園、公園などがあり入居者の散歩の際には、花々や木々を観ながら季節を感じ、近隣の方々の挨拶を交わしながら散歩を楽しんでいます。地域行事にも、回覧版を通して情報を頂き参加をさせて頂くこともあり、地域とのふれあひも大切にしています。事業所の庭や畑には季節の花々が咲いていたり、畑には野菜や果物を植えていつでも自然に触れ合えるような環境になっています。また職員は常に、事業所の理念でもある、(お元気で 明るく 心豊かに 過ごしましょう)に基づき、入居者の方々の笑顔を絶やさぬ様に、安心して、心地よく過ごせるような環境であるように支援しております。又、日常生活では、入居者の方々の出来る事を見出し、実行につなげられる様に自立支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じ建物に5事業所が入る複合施設の中にあるグループホームであり、避難訓練なども合同で実施するなど、相互に協力しあっている。避難訓練は地域にも回覧板で参加を呼びかけ、参加してもらうなど地域との協力体制構築にも努めており、日課になっている散歩などに出た時に話したり、回覧板を回すなど、地域とは自然な付き合いができています。また、家族は代表が運営推進会議に出席するとともに、ホームの家族会があり、家族の意見を出してもらう場になっており、出された意見は反映に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、入居者一人ひとりが、地域の中で健康ではつつと生活していくことができるように理念をつくり、共有して実践につなげている。	法人の理念を分かりやすくまとめて掲示し、職員間での共有に努めている。管理者は職員が明るく楽しく支援することで、利用者が平穩に過ごすことができると考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会をはじめとした地域のイベントへの参加、地域の方々の運営推進会議への出席や法人が実施する秋祭りへの招待などを通して、常に地域の方々との交流の機会が持てるように努めている。	散歩で地域の人と会えば挨拶をし、回覧板も回している。近隣中学とも交流する場があり、認知症を知ってもらえるよい機会にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生をはじめとした地域の方々の、職業体験やボランティアなどを積極的に受け容れて、認知症の人々への理解を深め、支援の方法を広げていけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を開催し、ホームの状況やサービスの取り組みなどについて報告している。出席された方々からは幅広くサービスについてのアドバイスを頂き、運営に活かす様にしている。	2か月に1回開催している。メンバーとして地域包括支援センター職員や民生委員のほか町会、家族代表が出席している。ホームの現状を報告する中で意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの方に出席して頂き、会議の議事録を市の高齢者支援課に提出している。また定期的に市の介護相談員の方に来所して頂いたり、市の介護サービス向上連絡会への出席をしている。	地域包括支援センターとの交流は活発で情報交換している。2か月に1回、市の介護相談員2名が来訪しており利用者の声を聞いてホームと共有している。年3回「介護サービス連絡会」に出席して、情報を施設運営に生かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修などに積極的に参加を促して、職員が身体拘束について正しい理解ができるようにしている。またホームの出入口は、安全のため1ヶ所のみ施錠をしているが、職員は常時鍵を携帯しておりすぐに出られる様している。	身体拘束についての勉強会を実施するとともに、事例を共有して身体拘束をしないケアの徹底に努めている。外に出ていく利用者には同行し見守ることで自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待については職員全員が徹底して防止に努め、外部・内部研修の参加や日常的に事例検討などを実施している。また言葉の虐待は分かり難い所があるので特に注意している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部や社内での研修の際に、学習する機会を持つ様に努めている。また、必要に応じて資料を作成し配布するなどしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、利用者やご家族が十分に理解・納得して不安や疑問が無くなるまで説明をするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的にご家族からは話を伺うような体制をとっている。また6ヶ月毎に家族会を開催し、家族からサービスに対する意見などを聞く機会を設けている。	家族会が年2回開催され、意見が出されている。職員の顔写真の掲示などは家族会の意見を反映したものである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に法人の定例会議を設けて、現場からの意見を聞く機会を設けている。日常的にもミーティングなどの際に職員から意見を聞く機会を設けている。	管理者は職員が意見を出しやすい環境作りに努めている。月1回のミーティングで意見を聞いており、職員の意見からケアに必要な福祉用具などの購入もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の状況把握に努めるようにしており、職員のモチベーションを維持していけるように職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人全体で研修の機会を設けている。新人職員はスキルを段階的に上げていけるようにマニュアルを作成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の向上連絡会等で出席している同業者と意見交換をして交流を図る様にしている。その際、他事業所で実施しているサービスなどについてよいと思われるものは参考にすようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初は、本人がスムーズにサービスを受け入れられるように、ご本人の不安や心配を和らげて安心できるようにし、段階を追って要望を傾聴して、その後の関係づくりが円滑になるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初にご家族の不安や心配を和らげて、ご本人への要望を傾聴することを心掛け、その後の関係づくりが円滑になるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に、ご本人とご家族の話を傾聴して正しくニーズを把握するように心掛けており、場合によっては他のサービスの利用に繋げていくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を支援される一方の立場に置かず、日常生活の中で本人の意欲を引き出すことに留意して、入居者が過度に依存する事がないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は、入居者のことを最も理解している存在であるため、ご本人との関係性に留意しながら共にご本人を支援していく存在と位置づけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人や地域の方が面会に見えた際には、交友が継続していくように促している。また、散歩などの際に馴染みの場所へ立ち寄る事ができるように配慮している。	近隣住民やデイサービスの利用者との交流継続の支援や家族との買い物や外食、墓参りなども継続できるようホームから働きかけをしている。またボランティアとは馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの気持ちを尊重しながら、入居者の皆様が孤立することなく、適度に関係を持つことができるようにレクリエーションやお手伝い等への参加を促す支援をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、全く関係を断ち切ってしまうのではなく、ご本人やご家族から相談があった際には、親身になって対応する様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に入居者一人ひとりのケアについての思いや暮らし方についての希望、意向を聞き取っている。本人の意思表示が困難な場合には、ご家族などに相談したり、職員間で検討し、より理想的な支援が行えるように努めている。	職員全員でユニットを越え、全利用者に関わっており、利用者の思いや希望等の把握に努めている。把握した思いや小さな気づきは職員間で共有し、介護計画につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や生活環境やサービス利用の経過などを重視し、できるだけ把握するように心掛けて適切な支援を受ける事ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に、入居者一人ひとりの一日の過ごし方に気を留めるようにしており、一日の行動・心身状態や本人の有する力等の把握に努め、変化を敏感に察知するように心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアについては日常的に本人に意向を確認し、職員や関係者間でも情報を共有している。また、家族の面会時などにも意見を伺い、状況の変化を介護計画に反映できるようにしている。	介護計画は、本人や家族の意向を把握し、居室担当職員、介護支援専門員、計画作成担当者など関係者が話し合っって作成している。モニタリングは定期的に行い、現状にあった計画になっているかどうか検討し、家族にも説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子を個別記録にまとめており、職員間で情報共有や適宜見直しを行いながら、日常の広い場面で活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況などに変化が生じて、新たなニーズが生まれた場合には、支援やサービスの提供には可能な限り柔軟且つ多機能に対応するようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の暮らしと関わりが深い地域資源を把握するように努め、関係の継続を支援するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、受診が必要な場合には速やかに対応ができるように、普段から適宜連携をとりながら、納得のいく医療や助言を受けられるように支援している。	利用者のほとんどは提携病院の医師を主治医としており、毎月往診がある。また、急変時はファックスや電話でこまめにやりとりするなど連携体制が築かれている。他の通院は家族対応であるが、症状を伝えるなど適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護師は、職場内で日常的に連絡・相談が取れるような体制を整えており、入居者の異常などにも迅速に対応ができ、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段から入居者一人ひとりの介護サマリーを作成し、入院時にはすぐに医療機関に情報提供をできるようにしている。また、入院後も早期退院できるように適宜情報提供を行うなどの関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、事業所が看取りまで対応していることを踏まえて、ご本人やご家族が納得し安心して医療を受け最期を迎えることができるように、タイミングを見て本人や家族の意向を確認するようにしている。	終末期の対応については入居時に説明し、同意を得ている。重度化したときには再度家族と話し合い、意向を確認し同意書ももらっている。また管理者は、ターミナル支援する側の職員の気持ちにも配慮しているが、職員は前向きにとらえ、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変・事故時に備えて、普段から救急車の要請や緊急時の関係者への連絡の方法についてマニュアルを作成し、看護師の監督のもと応急処置や初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、法人全体で防災訓練を行い、さらに夜間帯の職員体制を想定した防災訓練を行っている。運営推進会議でも地域の方々に災害時の避難の協力などをお願いしている。	同じ建物に入る法人内5事業所合同で避難訓練を実施している。その際には回覧板で近隣住民にも呼びかけ参加してもらうなど、地域との協力体制も築かれている。家族の意見を生かし、居室のテレビを固定するなど地震対策も行っている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に声掛けをする際には、それぞれの個性に合わせて、自尊心やプライバシーに配慮をするようにしている。	管理者が手づくりした資料を配り、会議の後に接遇について勉強会を行っている。日々の支援の中で不適切な場面が見られた時は、その都度管理者が注意し、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した対応を心がけている。	職員は、入居者それぞれの個性に合わせた支援をしているが、権利擁護やプライバシーについて学ぶ機会は少ないように思われる。外部研修への参加や、伝承学習などが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で本人がご自分の思いや希望を表したり、自己決定ができるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活のペースとなるスケジュールはあるが、入居者一人ひとりのペースを優先し、それぞれのペースに合った過ごし方ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を伺いつつ、同じような服装を避け清潔感を心掛けている。また、月に1回訪問理容がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下機能を保つ為、食前には必ず口腔体操を行っている。また、献立には入居者の嗜好を取り入れ、調理に参加できる入居者と一緒に調理をしている。	普段は食材会社から届くメニューにアレンジを加え、目にも楽しめるよう、季節感や色どり、盛り付けを工夫している。日曜日は入居者と共に買い出しに行き、好きなものを作って楽しんでいる。食事レクリエーションなど外食の機会も大事にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は介護記録と別にチェックをしており、一人ひとりの状態に合わせて食事・水分の摂取量を調整し、適切な食事量・水分量の摂取ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者全員が、食事とおやつの後には必ず職員が声掛け・見守りをしながら口腔ケアを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時にトイレ誘導を行い、一人ひとりの排泄のパターンを徐々に把握するように努めて、可能な限りトイレで排泄をしてパット等の使用はしないようにしている。	適切なトイレ誘導で、なるべく綿の下着で過ごしてもらっている。多くの居室にはトイレが付いており、共有スペースで過ごしている時にも、その人の思いを尊重しながら居室のトイレに誘導するなど、労力を惜しまない排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分摂取を促し、食物繊維を含む食品や乳製品を摂取して頂くようにしたり、適度な運動を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎週、入浴日を決めてはいるが、入居者の要望に応じて入浴日以外でも柔軟に対応している。	入浴時は一緒に歌を歌うなど、入居者とコミュニケーションを取る絶好の機会として大切にしている。入浴に抵抗がある入居者には、状態を見守りながら機会をとらえて対応している。入浴が難しい場合は全身の清拭をし清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりがそれぞれのペースで休息したいときはできるようにしている。また、しっかりと睡眠が取れるように、日中はできるだけ活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については入居者とご家族に適宜説明をしており、不安無く内服して頂けるようにしている。また、確実な服薬の支援を行い内服後の病状の変化にも留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性をよく理解し、生活にアクセントを持たせて張り合いのある生活ができるように、レクリエーションなどの活動を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご近所の馴染みの場所などは散歩などの際に立ち寄るようにしている。それ以外の外出の希望はご家族などにも協力してもらい、できるだけ実現するようにしている。	2つのユニットと一緒に日課の散歩を楽しんでおり、地域の人々とふれあう機会も多い。入居者一人ひとりの希望や、職員体制に考慮し、職員が何度も往復して対応する日もある。また、畑もある広い中庭を何周かすることで、入居者の気分転換を図っている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、本人が金銭の管理をする事ができれば、ある程度の現金を持って管理して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて電話をか掛けたり、手紙を書いて出す事をお手伝いしたするようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、自然な雰囲気になるようにしており、入居者が過ごしやすいように掲示物等に配慮をしているが、あまり飾り過ぎないようにしている。	オープンな事務室をはさんで、2つのユニットが同じフロアに横に並んでいる。入居者は自由に両方のユニットを行き来しており、それは歩行訓練にもなっている。季節感を大切にし、職員の手づくりのカレンダーを掲示している。安全や清潔にも配慮し居心地の良い空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓のイスをはじめ、ソファなど多様にイスを配置しており、好きなどころに座って頂き思い思いに座って頂くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	永年使い慣れた家具や身の回りの物を持ってきて頂いて、できるだけそれまでの環境と違和感無く過ごせるように工夫している。	新しい環境でも安心して生活してもらえるよう、タンス、調度品などは、なるべく本人がそれまで使っていたものや馴染みのものを持ち込んでもらうように家族に依頼している。整理整頓や清潔など環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部は、入居者それぞれの状態に合わせて安全に暮らす事ができ、状況に応じて自立した生活が送れるように配慮している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所